

令和8年3月31日

世田谷区立世田谷小学校  
校長 金子 佳生 様

世田谷小学校関係者評価委員会  
委員長 森岡美佳  
委員 佐藤弘康  
松野佳子、和田昌幸  
久保田愛子  
事務局 副校長 横井 綾子

## 令和7年度 学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立世田谷小学校学校関係者評価委員会では、世田谷区評価共通項目、学校独自評価項目、および、重点目標の考察、委員による教育活動の参観などをもとに令和7年度の諸活動を検討し考察を行いました。評価報告書の作成にあたっては、客観性・妥当性を重んじ、次年度の教育計画に反映しやすいように、ポイントを絞って提言致します。

### ○ 評価の大項目

- I 児童アンケートの結果
- II 保護者アンケートの結果
- III 地域アンケートの結果
- IV 総括

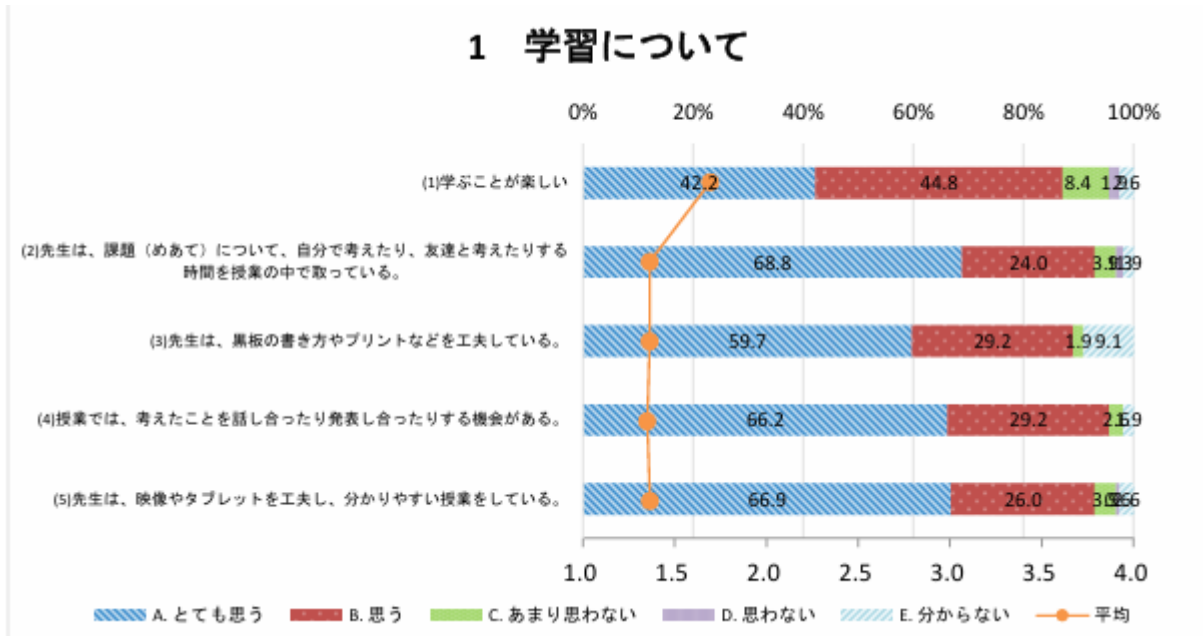
### ○ 評価委員会としての共通理解

- ・「とても思う」(A) + 「思う」(B) →プラス面
- ・「あまり思わない」(C) + 「思わない」(D) →努力目標、検討項目(顕著な数値を注視)
- ・「わからない」(E) →その背景に注目する必要有り

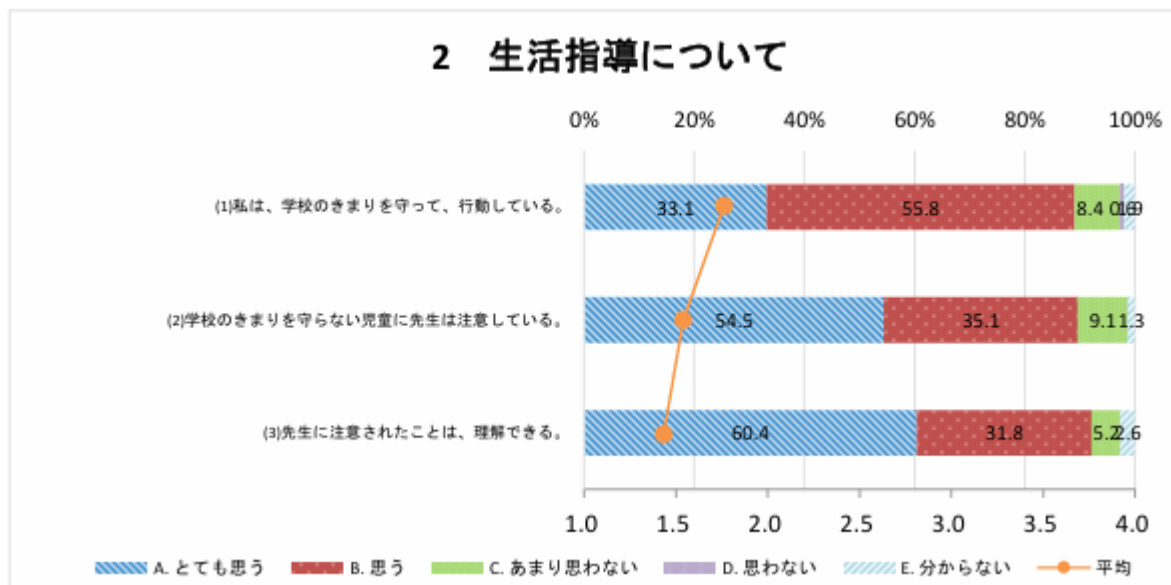
# I 児童アンケートの結果

高学年（5・6年生）を対象とした結果の概要を以下に記載する。

## 1. 学習面

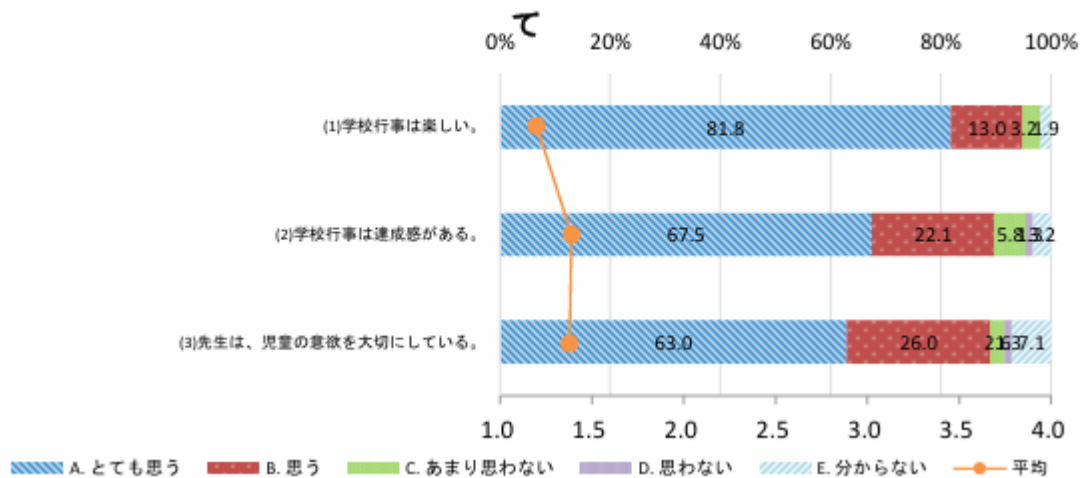


## 2. 生活指導面



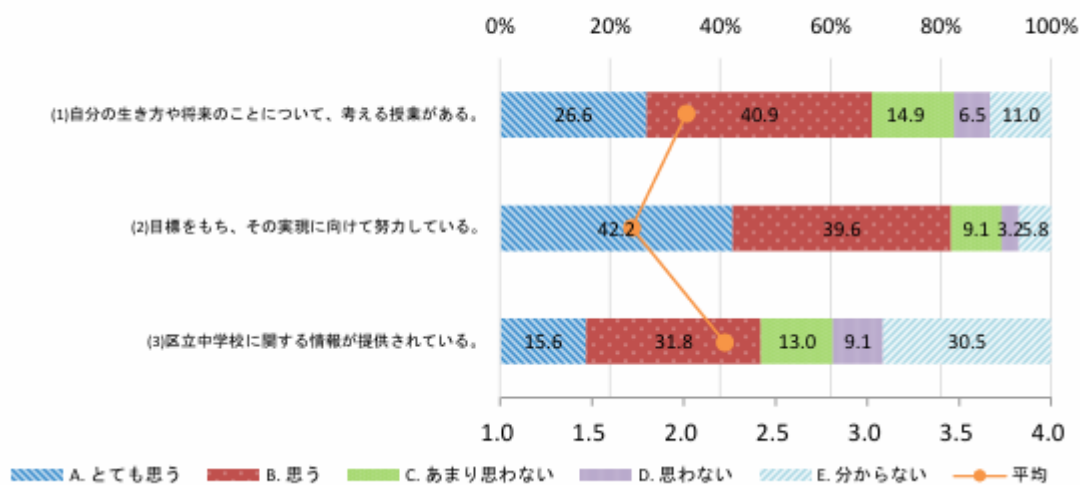
### 3. 行事等

#### 3 学校行事(運動会・学芸会、学習発表会、宿泊行事など)について

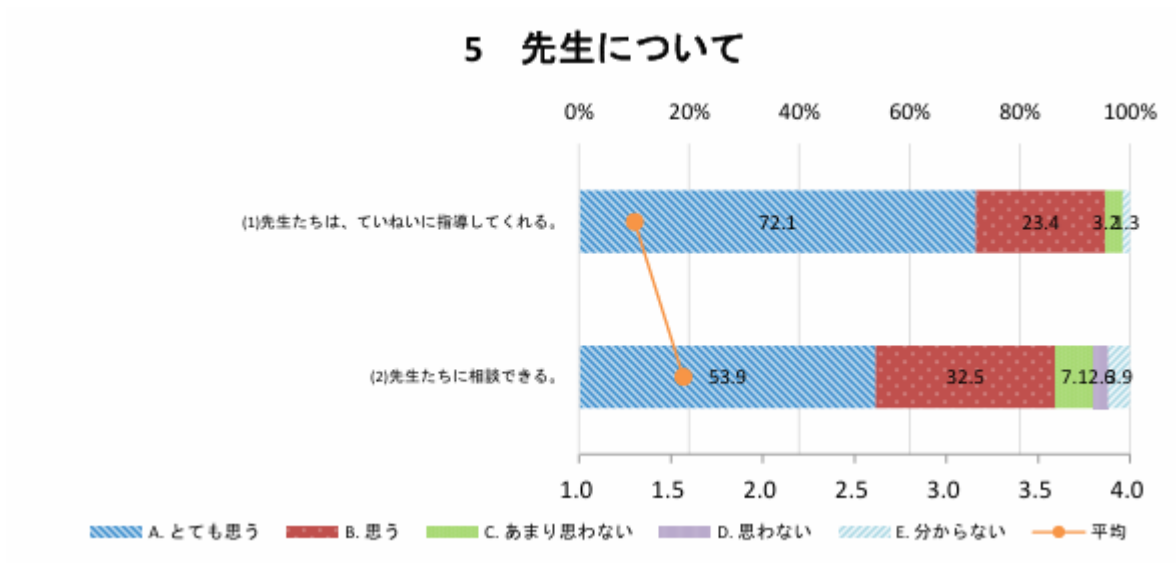


### 4. キャリア教育

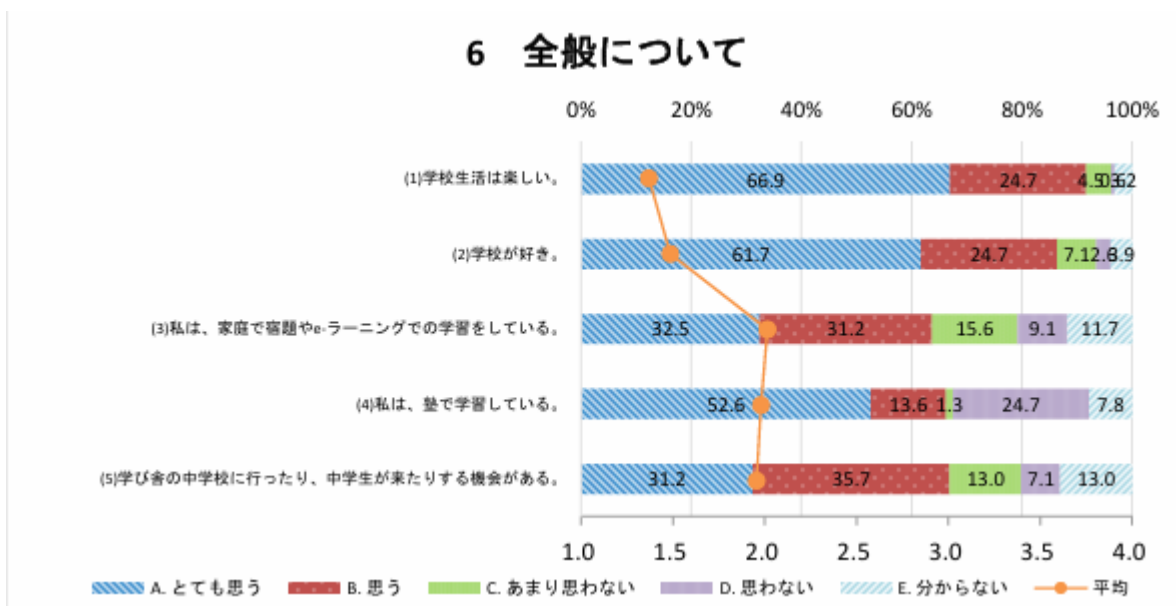
#### 4 キャリア教育について



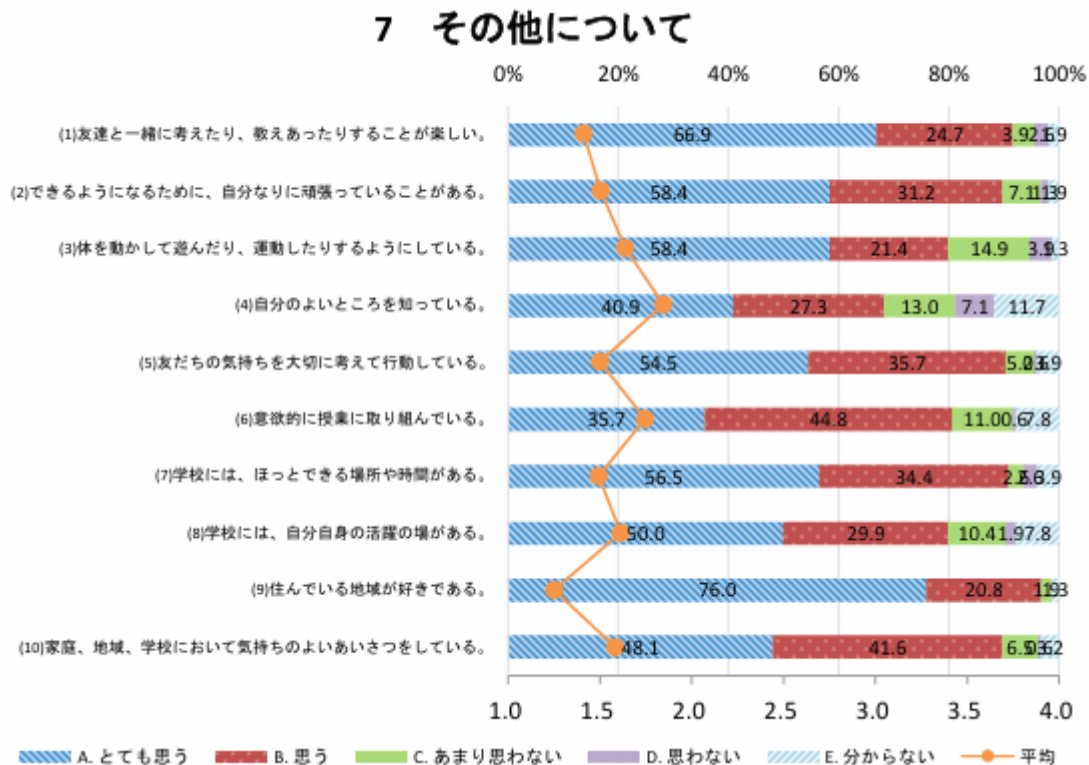
## 5. 先生について



## 6. 全般について



## 7. 学校で設定した項目



### 【結果まとめ】

- ほとんどの項目の肯定的評価が8割を超え、多くの高学年児童が学校での活動に満足している様子がみとれる
  - 特に95%以上の肯定的評価が集まった項目は以下の通り
    - ◇ 先生たちは、ていねいに指導してくれる（2年連続）
    - ◇ 授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある（2年連続）
    - ◇ 住んでいる地域が好きである
- 肯定的評価が8割に満たなかった項目
  - キャリア教育の項目
    - ◇ 自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある…肯定的評価 68%（前年度 68%）
    - ◇ 区立中学校に関する情報が提供されている…肯定的評価 47%（前年度 60%）
  - 全般の項目
    - ◇ 学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある…肯定的評価 67%（前年度 84%）
  - 学校で設定した項目
    - ◇ 自分のよいところを知っている…肯定的評価 68%（前年度 66%）
- 否定的評価が2割を超えた項目
  - ◇ 自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある…否定的評価 21%（前年度 14%）
  - ◇ 区立中学校に関する情報が提供されている…否定的評価 22%（前年度 21%）
  - ◇ 学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある…否定的評価 20%（前年度 8%）

## 【考察】

今年度も、それまでとは変更になった昨年に引き続き 5・6 年生児童の結果についての考察とする。

「1. 学習面」「2. 生活指導面」「3. 行事等」「4. キャリア教育」「5. 先生について」「6. 全般について」「7. 学校で設定した項目（その他）」の 7 つの大項目（章）、設問数 31 の中で、「とても思う」「思う」の肯定的評価は、「4. キャリア教育」の 2 設問、「6. 全般について」3 設問、「7. 学校で設定した項目（その他）」の 3 設問（うち 2 設問は 0.1%と 0.2%及ばず）を除く 28 設問が、80%を超える高評価となり、昨年度同様、児童の満足度が高い結果となった。以下、結果のまとめでも示した 2 点に分けて考察を行う。

### 1) 肯定的評価が 95%以上の項目について

「先生たちは、ていねいに指導してくれる」の肯定的評価は 95.5%（昨年度 97.7%）であり、「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」も 95.4%（昨年度 96.6%）であった。

高学年は、教科担任制も導入されており、子どもたちは担任・専科教員以外にも他クラスの教員と授業を通して関わる機会が多い。そのような中でも、教師が「丁寧に指導している」という印象をほとんどの子どもが抱いており、教師に対する信頼度が高いことが窺える。また、授業内で自分の考えを話し合ったり伝えたりする時間がしっかりと確保されていることが分かる。この項目の評価が高いということは、ただ単にその時間が設けられている、ということではなく、子ども自らが能動的に発信に関わっていることを自覚し、その事実・内容に満足しているが故に、肯定的な選択肢を選んでいいることが言えよう。

本ページの下方に記した本年度の世田谷小学校「学校経営方針」では、「子どもが自ら育つ学校」を目指すことが示されている。学校（教職員）が、ありのままの子どもの姿を受け入れ、子どもが安心できる関係を築けるよう工夫することで、子どもが能動的に動いていく、そのような理想的な子どもの姿を具現化していく状況にあることが想像できる。

そして、「住んでいる地域が好きである」96.8%（昨年度 93.6%）が抽出された。「学校経営方針」のサブテーマと「重点目標 3」に、「居場所」という言葉が挙がっている。“自分の居場所がある世田谷小学校”、という意識が子どもたちの中で育ち、当たり前のように自分が居られる落ち着いた環境であるという実感が子どもたちの中で醸成されていることが想像できる。もちろん、学習の中で地域に出たり地域に住む方々のお話を聞く機会があったり、世田谷小地域ネット「いぶき」や子ども食堂である「いよよ食堂」、保護者をはじめとする PTA などの地域に住む方々の活発な活動や温かい見守りがあったりして、それを肌で感じているからこそその結果であることが考えられる。

これらの考察から、身近な教師・学校全体の教職員・地域の方々の「子どもを大切に思い行動する姿勢」が、子どもにとっての安心感や信頼に大きく結びついていることが言えるだろう。

### 2) 肯定的評価が 8 割に満たなかった項目と否定的評価が 2 割を超えた項目について

昨年に続き、キャリア教育に関する項目が複数挙げられた。中でも、学び舎の中学校の情報や中学生との交流に関する項目についての否定的評価が昨年度と比較して高くなっている。この点に関しては、年により関わる機会の差があることが挙げられるかもしれない。世田谷小学校の運動会で中学生が毎年手伝ってくれたり、地域のお祭りで中学生と会ったりして、多少なりとも関わる機会は設けられている。今年度は 3 学期に桜小学校との交流があったと聞いている。次年度は学び舎での活動が多くなる予定とのことであるため、期待したい。

一方、昨年同様に続き「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」が挙がっている。道徳の時間や総合的な学習の時間、その他の授業や行事の中で、折に触れ将来に関する内容には触れられていることが想像できる。今後は、さらに単元・題材を通して子どもたち自身が、自分の生き方や将来について考えている、という実感を持てることを期待したい。

【学校経営方針】 「子どもが自ら育つ学校」～みんなに居場所がある楽しい学校～

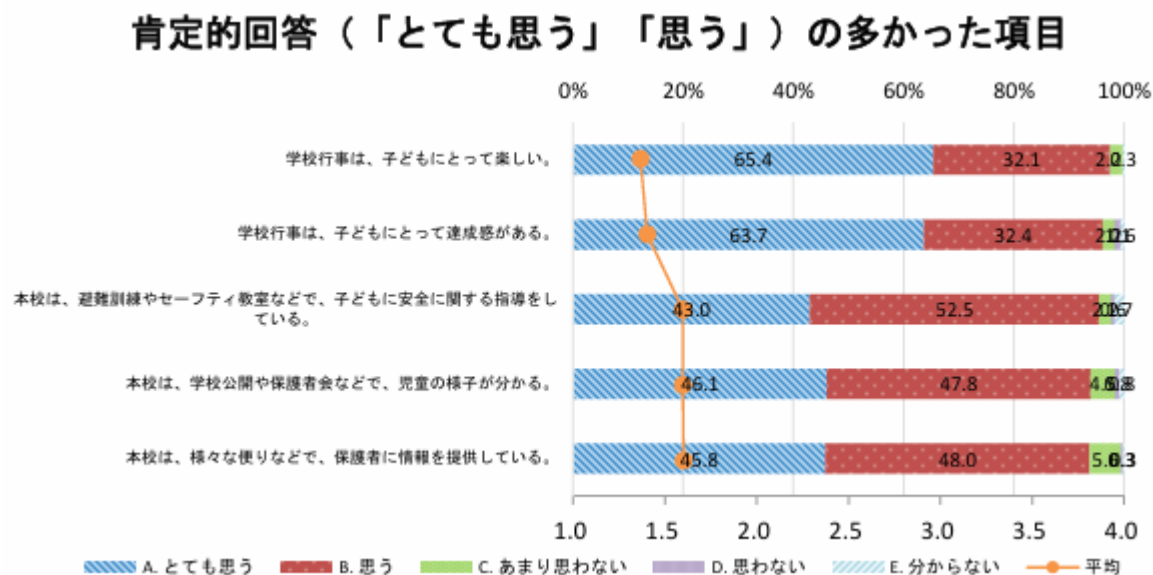
●重点目標 1：子どもの「やりたい」が実現でき、子ども自ら学習する学校

●重点目標 2：「個別最適な学び」 子どもが「分かる喜び」を実感できる学校

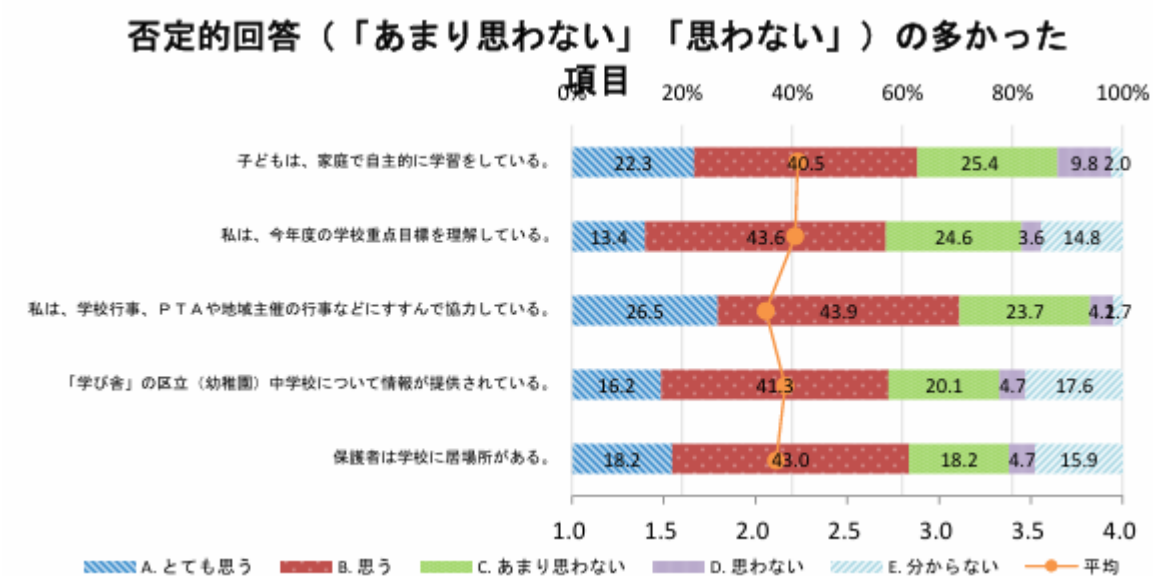
●重点目標 3：子ども一人ひとりに居場所があり、それぞれの多様な個性を生かし、認め合い、共に学び育つ学校

## II 保護者アンケートの結果

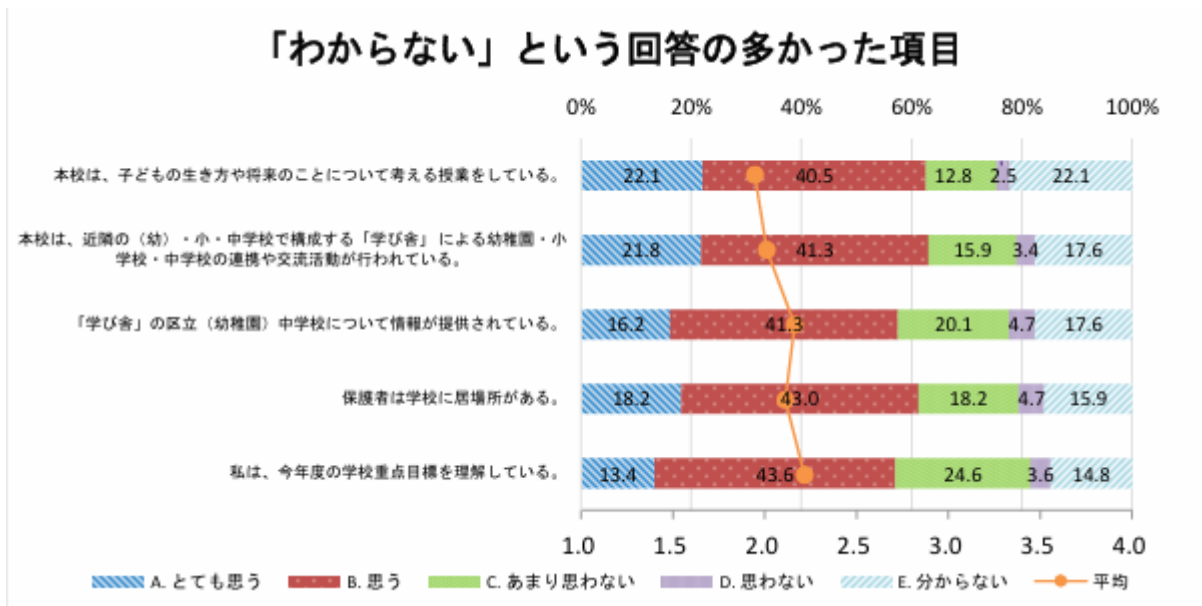
### 1. 肯定的回答が多かった項目



### 2. 否定的回答が多かった項目



### 3. 「わからない」が多かった項目



#### 【考察】

肯定的回答から、総合的に保護者の本校評価はとて高く、本校の児童への取り組みまた関わりが、保護者にもよく見えていることが伺える。

否定的回答では、わからないという回答との重複が多いため、あえて項目を絞ると「子どもは、家庭で自主的に学習をしている」を取り上げる。

現在、保護者と児童の世代で大きく異なるのが、やはり IT ツールの普及であり、貸与されている iPad を用いて家庭で学んでいたとしても、保護者世代は学んでいるように見えない側面もあるのでは無いかと推察する。

また実際の側面として、iPad の他に自分のスマートフォンを所有している児童も目に見えて増えてきており、学習時に目に見える、あるいは音が聞こえる範囲にあるだけで、集中力が著しく低下するというデータもある。また私自身は、高校生の保護者会においても、スマートフォンが最大の敵であると、指摘されていることから、学習環境の整備に関する情報を家庭に発信して、家庭における学習環境の理解を深めていただけたらと思う。

わからないという回答が多かった項目は、「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」であった。保護者が普段、授業を見ることが出来る機会も学校公開の場に限られることも多く、そのことから本設問への回答が難しいというのは推察できるが、私が学校公開で見ることのできた「道徳」「社会」の授業では、先生方の大変な工夫が凝らされており、生き方や将来のことを考える授業がなされていると、とても感じる事ができた。

また、このアンケートが始まってから続く「わからない」という回答の多くについて情報不足からくるものなので、周知方法について「すぐーる」を最大限活用する事を提案したい。児童へのプリント配布に加えて、同報であってもすぐーるで配信を行い情報の定着を図ることもでき、また普段の活動も把握しやすいと思う。

ちなみに、高校では Classi というアプリを活用し、子ども一人に対して複数関係者が情報を受け取る仕組みとなっており、また情報の発信頻度も約週 2 回くらいあるので参考にさせていただきたい。

肯定的回答が多かった項目は、例年同様学校行事、学校公開に関するものであった。これは学校側の取り組み内容、姿勢等が保護者から高く評価されているということであり、非常に喜ばしいことと考える。「子どもにとって楽しい」「安全に関する指導」という言葉のある設問に 9 割以上の保護者が肯定的な回答をしているということは、学校への厚い信頼が伺える。

否定的な回答が多かった項目自体は昨年と同様のものとなっているが、「保護者は学校に居場所がある」といった設問のように、否定的回答の割合が減っているものもある。引き続き伸びしろをとらえ、前向きに改善に取り組んでもらいたい。

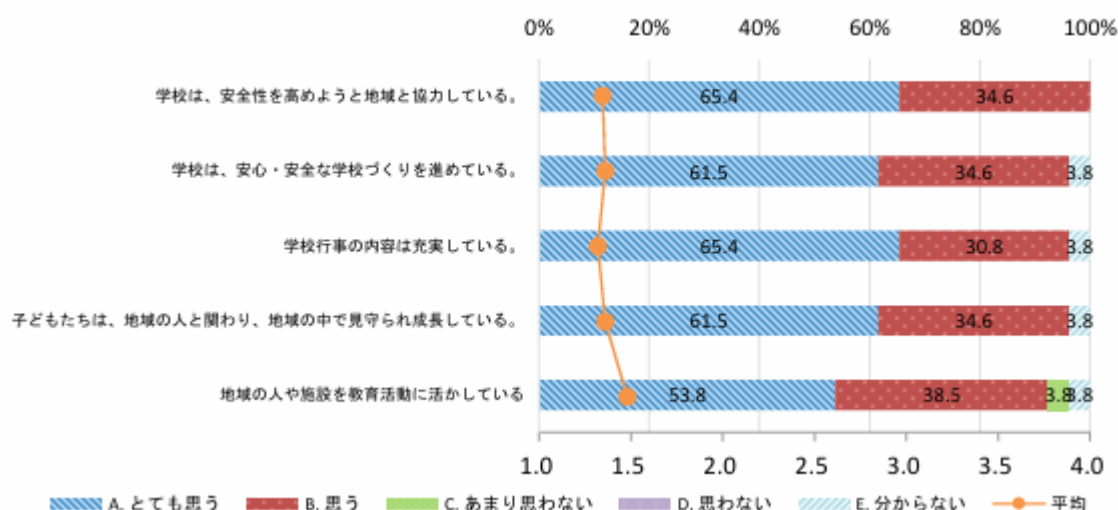
「わからない」という回答が多かった項目でも、情報提供の方法等の工夫がなされたのか、わからないと回答した人の割合自体は昨年より減っており（例：本校は子どもの生き方や将来の～ 昨年 31.7%→今年 22.1%）、改善が見られている。

全体を通して、本校は教育活動全般において保護者から高い評価を得ていると言える。子供たちは楽しく学校に通っており、達成感のある充実した小学校生活を行っていると感じていることが伺える。この状況が続くよう、今後もより良い学校運営を目指して頑張っていただきたい。

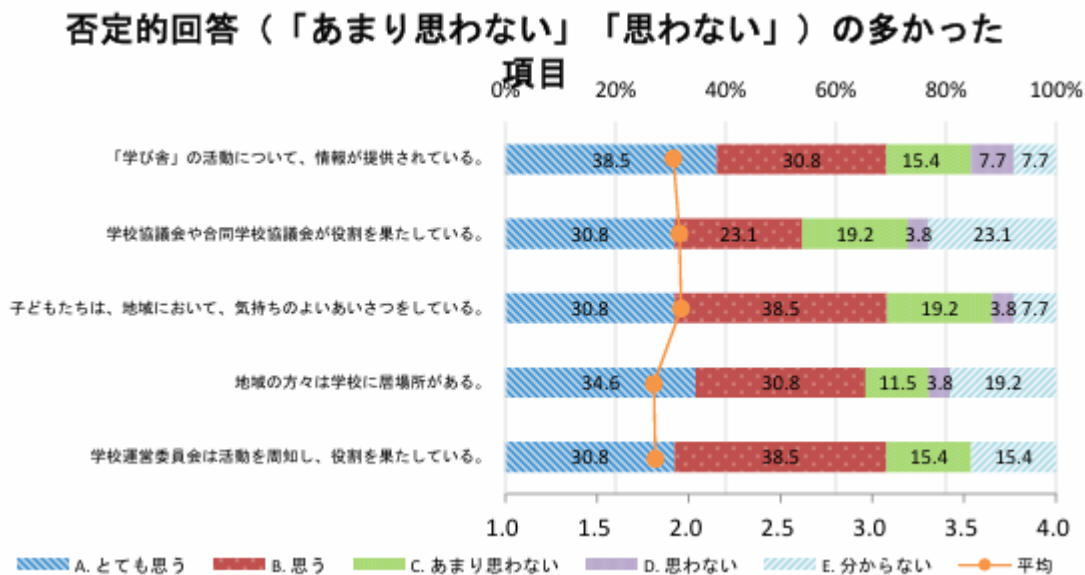
### Ⅲ 地域アンケートの結果

#### 1. 肯定的回答が多かった項目

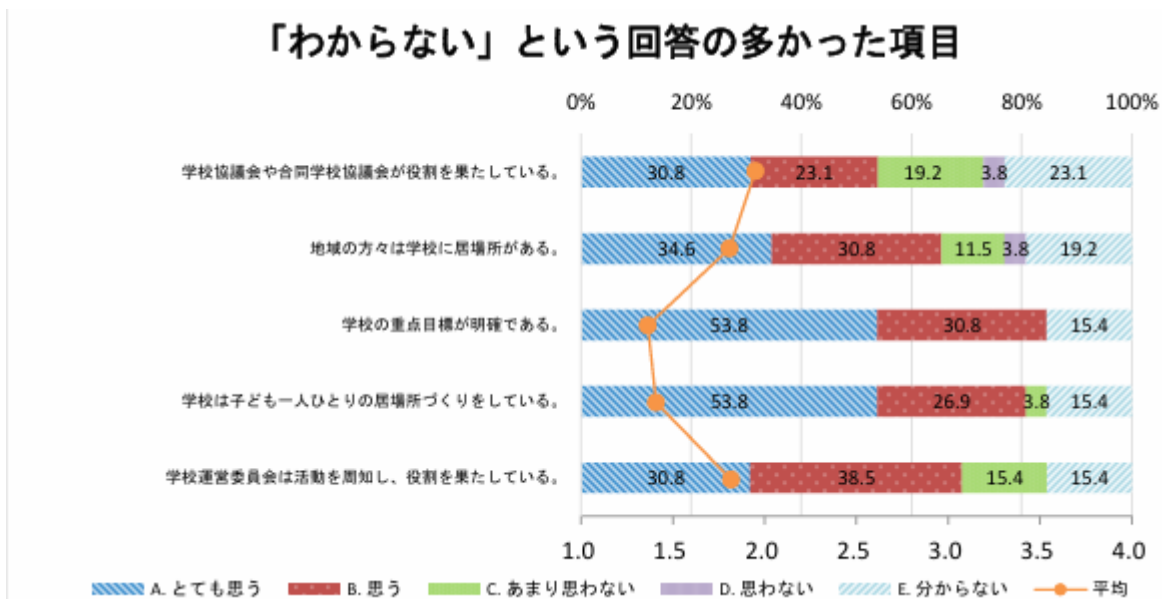
肯定的回答（「とても思う」「思う」）の多かった項目



## 2. 否定的回答が多かった項目



## 3. 「わからない」が多かった項目



### 【考察】

アンケートからわかる事は、地域の方々には学校の様子を主に学校行事・通学時の児童の様子・学校だより等で学校の情報を知り得ているという事である。学校の情報発信のツールとしてHPもあるが、地域の方々に限って言えば学校だよりの方が有益であると考えられる。今回肯定的な評価が低い「学び舎」、学校協議会や合同学校協議会の情報については学校だよりにて発信しているものの地域の方々にはあまり有効ではなかったようである。しかしながら、今年度学校公開日に地域の方々・保護者・先生達との懇談ではそれぞれの立場から子ども達の話ができて有意義な時間を過ごすことが出来た。このような機会を増やしその都度学校の情報発信していくのも有効な手立てと思われる。

また、学校における居場所については、半数以上の方（65.4%）が学校に居場所があると回答頂いている。いよいよ食堂の活動やいぶきのパトロールを始めとする様々な活動が地域の協力を得ながら行われていることも一因と推測される。今後も学校と共に地域活動が継続していく事に期待したい。

## V 総括

学校評価アンケートにご回答いただきましてありがとうございます。皆様からの貴重なアンケートを元に学校関係者評価委員会として真摯に分析・検討させて頂きました。

さて、アンケートの評価を総合的に見ると児童・保護者・地域とも世田谷小学校の評価はとても高いように思われた。ここ数年「はじめに子どもありき」という教育理念の元、「子どもが自ら育つ学校」～みんなに居場所がある楽しい学校～を目指して学校・保護者・地域が共に取り組んだ成果が定着しつつあるように思えた。なお、各項目別に詳しく考察しておりますので合わせてご覧ください。

### 重点目標1 子どもの「やりたい」が実現でき、子ども自ら学習する学校について

引き続き今年度も授業では1つの分野(教科)だけではなく児童の興味関心に沿って再構成し、児童の主体性を引き出していることがよくわかった。子どもたちは自分のペースで課題に取り組み、自分で考え、時には他の子たちと協働しながらテーマを追求していた。どの児童も楽しみながら授業に取り組んでいたのが印象的であった。学校公開日に5学年の児童たちがキッチンカーにて飲み物とスイーツ(リンゴのコンポート)の販売をしていた時のことである。お客様の列が長くなりお客様対応に四苦八苦していた。商品を渡す係の児童がその状況を見てお客様を待たせない為の手立てを考え、立ち位置や説明内容を変えたり、友達に応援依頼をしたりして対応していた。まさに重点目標を体現化している様子であった。今後も主体的に学び、興味を探究し心から楽しい自分なりの学習スタイルが見つかる事に期待するところである。

### 重点目標2 「個別最適な学び」子どもが「わかる喜び」を実感できる学校

児童アンケートの高い評価に先生たちは、ていねいに指導してくれる。また、授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会があるの項目も肯定的評価が95%以上と昨年同様高い。今年度で2年目になる「教科担任制」により児童理解も進み、子どもたちに今何が必要なのかを日々観察し、課題の解決や意思決定出来るよう授業の工夫をしている事がこの結果をもたらしていると思われる。先生たちのご努力に頭が下がる思いである。

### 重点目標3 子ども一人一人に居場所があり、それぞれの多様な個性を生かし、認め合い共に学び育つ学校

「ほっとルーム」の更なる活用や、組織的な支援体制のもと教職員が連携し課題に取り組んだ結果、学校にほっとできる場所や時間があると思っている児童が90.9%と昨年度より高い結果に繋がっているようである。ただし1割程の児童は居心地の悪さを感じているのも確かである。その児童たちにも居心地の良さを感じもらえるよう更なる取り組みに期待したい。また、保護者運営の「わかばカフェ」地域運営の「いよよ食堂」が児童の居場所や支援だけでなく保護者・地域の方々への居場所作りに展開できつつある様に思われる。先日の学校公開日の際に行われた懇談会では、地域の方々・保護者・先生たちと授業の感想や・意見を交わすことができていた。それぞれの視点から子どもたちを見ることができとても有意義な時間であった。世田谷小学校が地域のプラットホーム的の役割を担い、地域の居場所となりうる可能性を強く感じる事が出来た。

最後に明日を担う子どもたちのために学校評価委員会の評価を生かして子どもたちが夢を持ち、充実した世田谷小学校の伝統ある教育が展開されることを願うところであります。